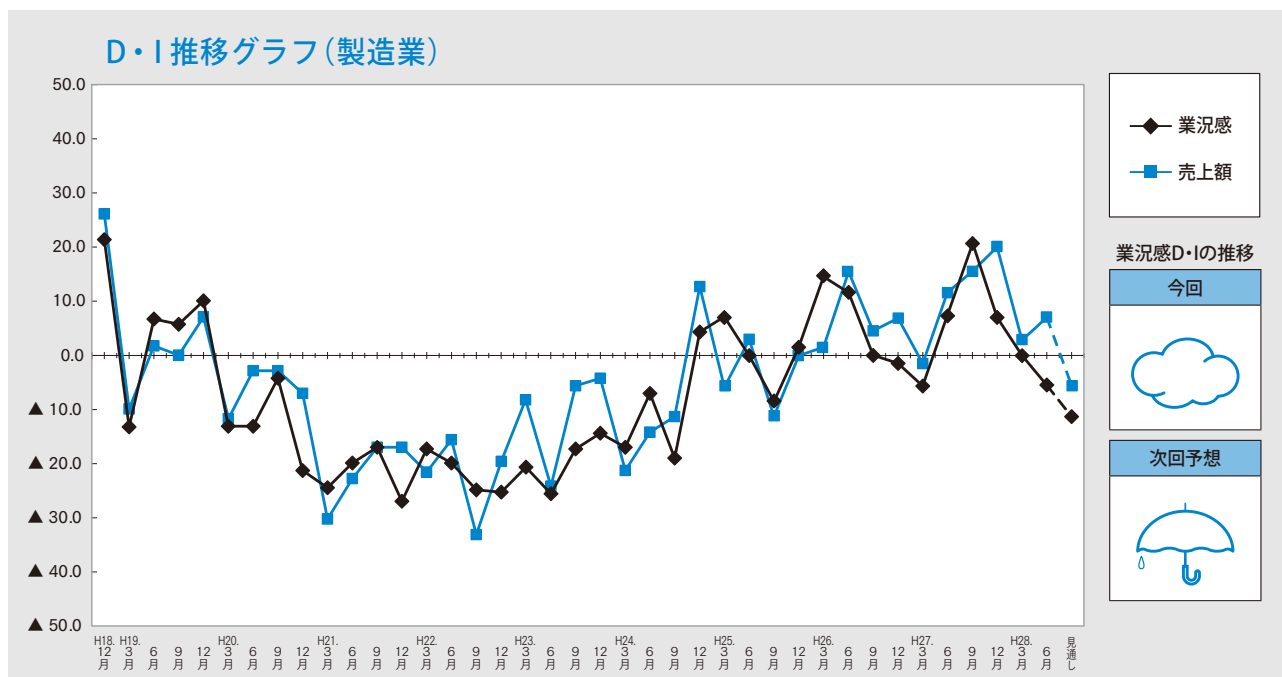


# 製造業

Manufacturing

# 業況感3期連続悪化



## 1 今期 (平成28年4 - 6月期)

今期の業況感は▲5.6まで低下。前期比でマイナス5.6ポイントの3期連続悪化となった。

内容を見ると、仕入価格が前期から▲12.5ポイント低下した一方、その他の項目では比較的好調に推移しており、売上額・収益・販売価格ともに前期から改善している。また、在庫も過剰感が解消され、資金繰りもD I値マイナスが続いているものの、トレンドとしては改善傾向にある。

足元の状況は改善しているが、低迷する昨今の景気動向等を踏まえ、自社の業況に対する悲観的な見通しが反映されているものと思われる。

## 2 来期の予想 (平成28年7 - 9月期)

来期も引き続き業況感の悪化が続く見通しとなっており、今期より5.7ポイント低下し、D I値▲11.3まで悪化している。

今期大きく悪化した仕入価格D Iがやや改善したものの、その他の項目においては軒並み悪化しており、特に売上額は今期から12.6ポイントと悪化幅が特に大きい。

## DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H27. 6月期	H27. 9月期	H27. 12月期	H28. 3月期	H28. 6月期	来期 見込み
業況感	7.1	20.3	7.1	0.0	▲ 5.6	▲ 11.3
売上額	11.4	15.7	20.0	2.9	7.0	▲ 5.6
収益	10.1	10.1	14.3	▲ 1.4	0.0	▲ 5.6
販売価格	8.7	8.6	11.4	2.9	5.6	4.2
仕入価格	▲ 31.9	▲ 15.7	▲ 18.6	▲ 12.9	▲ 25.4	▲ 22.5
在庫	0.0	5.7	2.9	▲ 8.6	0.0	1.4
資金繰り	▲ 12.9	▲ 4.3	▲ 7.1	▲ 20.0	▲ 14.1	▲ 9.9
人手	15.7	10.0	18.6	10.1	7.0	2.8
設備状況	5.7	12.9	15.7	15.7	11.3	12.7

## 業況調査メモ

コーヒーやお茶、焼酎など嗜好品の味を決めるのはブレンド技術だと言われる。通常、本格焼酎も新酒に数種類の原酒をブレンドして商品化しているが、その中でも長島研醸の「さつま島美人」が広く支持されているのは、このブレンドを極めているからだと言われる。県内には小さな蔵元が集まった協業組織が6社あり、協業化と同時に製造場も一本化されたが、長島研醸は島内5社の蔵元の製造場はそのまま残し、各蔵元で造る原酒をブレンドしている。酒質の異なる5つの蔵元の焼酎が一体化し、まるやかな甘さ、絶妙な味わいの焼酎が生み出される…。そんなストーリーが商品に付加価値を与えている。